

リーダー部門ベスト10



1位 野尻知里さん (55歳)

テルモ株式会社 執行役員 テルモハート社 社長
磁気浮上型遠心ポンプ方式を用いた世界初の補助人工心臓を実用化。07年、欧州で販売を開始した→詳しくは142頁



2位 永谷亜矢子さん (35歳)

東京ガールズコレクション実行委員会 チーフプロデューサー 株式会社ゼイヴェル プロデューサー 株式会社F1メディア 取締役
「東京ガールズコレクション」を統括→詳しくは146頁



3位 松場登美さん (58歳)

株式会社石見銀山生活文化研究所 取締役所長
石見銀山から生活文化を発信。ファッションブランド「郡言堂」を軸に、年商10億円を誇る→詳しくは148頁



4位 松村文代さん (42歳)

株式会社東芝 産業システム社 事業開発推進統括部 事業開発推進室 第二担当 課長代理
「消せるトナー e-blue」を製品化→詳しくは152頁



5位 吉高まりさん (45歳)

三菱UFJ証券株式会社 クリーン・エネルギー・ファイナンス委員会 CDM/JI主任研究員
地球温暖化対策として京都議定書で定めた排出権を生むコンサルタントの先駆者→詳しくは153頁



6位 永田万里子さん (49歳)

株式会社アイフリーク 代表取締役社長
携帯メール向け「デコメール」のコンテンツ事業を展開。大証ヘラクレスに上場した→詳しくは175頁



7位 谷口とよ美さん (55歳)

株式会社リブネット 代表取締役
民間企業で初めて学校図書館の運営を受託する新しいビジネスモデルを作った→詳しくは176頁



8位 福川千富泉さん (59歳)

有限会社美泉 代表取締役
51歳で始めたグループホーム7カ所の経営など介護ビジネスで売り上げ3億4000万円を達成した→詳しくは176頁



9位 岩本真実さん (36歳)

株式会社K2インターナショナルジャパン Y-MAC統括責任者
ニート支援の若者自立塾を設立。株式会社として営む飲食店を通じ就労支援する→詳しくは177頁



10位 吉田えりさん (33歳)

NPO法人九州バイオマスフォーラム 理事長
草を使ったバイオマスエネルギー生産の仕組みを提案。自治体と組んで事業を展開→詳しくは177頁

リーダー部門



リーダー部門審査員
齋藤聖美さん
ジェイ・ボンド証券 代表取締役社長

審査・ランキングはジェイ・ボンド証券社長の齋藤聖美さんによる。審査は仕事の①新規性②社会への貢献度③成功度、その人の④将来性⑤ロールモデル性の5つの基準で行った→詳しくは182頁参照

「今年は、個人の持つ高い能力だけでなく、組織を動かす力、プロジェクトを成功させるプロジェクトマネジメント力、先見性、グローバルな視点——、これらを併せ持つリーダーが多く登場した年でした」とリーダー部門審査員の齋藤聖美さん。

1位の野尻知里さん、4位の松村文代さんは、医師と技術者という理系出身者。「女性が少ない理系分野でこれほど活躍した人が出てきたのは、とても明るいニュースです」。松村さんと5位の吉高まりさんは、環境という分野で、時代を先取りした活躍が目覚ましい。2位の永谷亜矢子さん、3位の松場登美さんも含め、「皆さん、リーダーシップにとっても重要な、社内外の様々な人の利害関係をまとめて、現実的にプロジェクトを進めていく力を持つ人々たち。組織に影響を与えられる、本当の意味で実力を持った女性が増えてきたと感じさせます」。

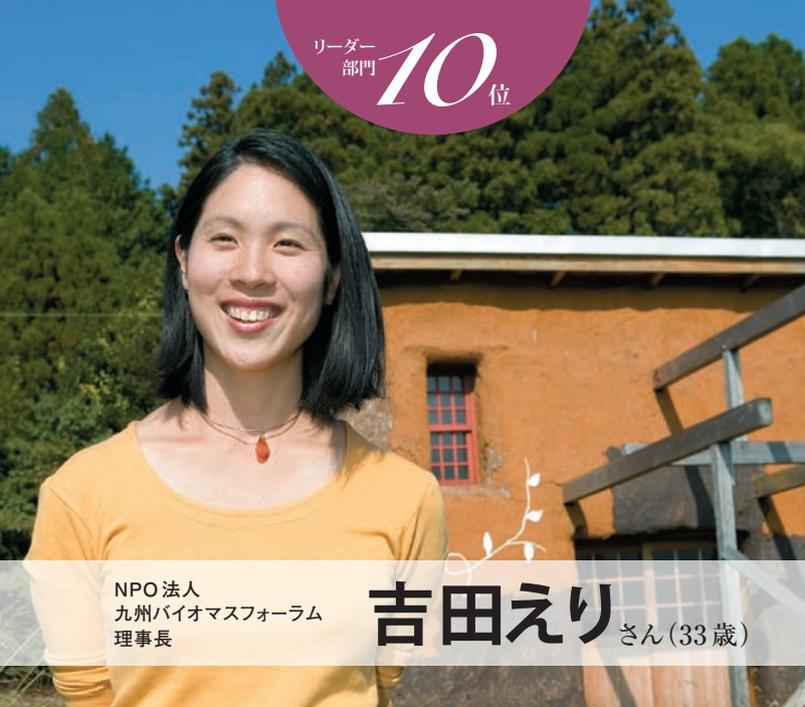
今年のトレンド

事業を成功に導く
プロジェクトマネジメント
に長けたリーダー

周囲を納得させ、組織を
動かす力を持つ女性たち

抜き出た先見性で、
社会の課題を
見抜いて行動する力

7位谷口とよ美さん、8位福川千富泉さん、9位岩本真実さん、10位吉田えりさんは、ジャンルは違えど、社会の課題に果敢に取り組みという共通点がある。会社起業家と呼ばれるリーダー層が厚みを増してきた。6位永田万里子さんは株式市場が低迷するなかで、新規市場を果たし今年大きな成果を挙げている。「大賞にもなった野尻さんは、日本だけでなく世界のリーダーと言っている実力を持った方。今後こういった女性がたくさん出てくることを期待したいです」



NPO法人
九州バイオマスフォーラム
理事長

吉田えりさん(33歳)

草をエネルギーに変えて農家の新しい事業を提案。自治体も動かした

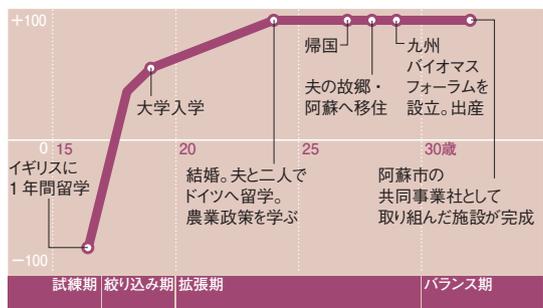
熊本・阿蘇山の雄大な南山麓。その広大なスキの牧草地で、NEDO（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）の補助を受け、公共のレジャー施設「アゼリア21」向けに、日本で初めて草を使った発電を手がけたのが九州バイオマスフォーラム。理事長を務めるのが吉田えりさんだ。

「バイオマス」（再生可能な有機性資源）は、石油に代わる代替エネルギーとして注目を集めている。前述の発電事業は事業規模8億円。吉田さんらが、阿蘇市を動かして計画書を提出し、事業化にこぎ着けた。07年3月末に完成したアゼリア21のプラントでは、温水プールのエネルギー源に草を使用。同フォーラムはその草の採集を担当する。「阿蘇の草原

受賞理由

● 国の補助を受けた大型プロジェクトを勝ち取る積極性
● 新しい環境で立場の異なる人を巻き込みビジネスを創出した点

に手を入れることで、減りつつある草原の維持も図りたい」
吉田さんがバイオマスに関心を持ったのは、ドイツ留学中、日本からのバイオマス事業の視察団の通訳を務めたとき。「農家が農産物だけでなくエネルギーも生産している姿に刺激を受けた」。2歳の双子を育てながら、草のエネルギー化のほかに、えんぶら油の再利用など、実演も交え一般市民に向けた啓蒙活動が続ける。05年からは、草の生産農家と草が必要な畜産農家の仲介ビジネスにも乗り出した。根底にあるのは「日本の農業の可能性を広げていきたい」という強い思いだ。



28歳で阿蘇に
移住。NPOを
立ち上げる



74年ドイツ生まれ。慶応大学環境情報学部卒業後、阿蘇出身の夫と結婚。ドイツのミュンヘン工科大学大学院に、夫と2人で留学、農村計画学を学ぶ。帰国後の03年、阿蘇に移住。仲間とともにバイオマスの勉強会を開いたところ九州の農政局にすすめられ、九州バイオマスフォーラムを立ち上げた。⑤ドイツで通訳をしていた20代

- 20代にしてよかったこと／留学して最先端の農村経営を学んだこと、結婚したこと
- 30代にしてよかったこと／出産したこと。子育てを経験したこと
- 仕事に役立った・人生に効いた本／『自然農法 わら一本の革命』（福岡正信著）『エンデの遺言』（河邑厚徳著）『様々な考え方を本から学んでいます』



株式会社K2インター
ナショナルジャパン
Y-MAC統括責任者

岩本真実さん(36歳)

直営の飲食店を通じニートの若者の就労支援を展開するリーダー

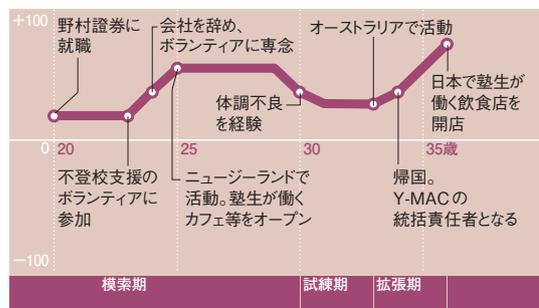
全国60万人超といわれるニート。その数は今後も増えると予測され、厚生労働省は05年から全国の事業者を募りニートの若者に向けた就労支援「若者自立塾」を開始した。「Y-MAC」はその自立塾の一つだ。

統括責任者の岩本真実さんは、スタッフ約20人、塾生約60人をもとめる業界若手のリーダー。Y-MACではニートの若者を募り、3か月間の共同生活を通じて規則的な生活を送りながら、インターンシップのような形で就労体験を実施する。岩本さんは、横浜の商店街に打診し飲食店を07年オープン、働く場所を作った。「もう一つ私がこだわっているのは出口。就労経験を積んでも就職先がないと自立は難しい。少しでも確かな就職口をと、企業に電話し

受賞理由

● ニート支援のための店舗開発、経営を指揮
● 就職率7割を達成する雇用機会増大の地道な努力

たり、訪問したり、営業努力を重ねた。延べ100人近いY-MAC卒業生の就職率は7割を誇る。塾生が集まらない自立塾も目立つなか、Y-MACは堅調な事業展開をし、K2インターナショナルジャパンの今期売り上げは約2億円と伸び傾向だ。岩本さんが支援活動を始めたのは13年前。これまで700人の若者にかかわってきた。海外で日本の若者と共同生活をし、就労体験のための店舗開発と運営に携わったキャリアも持つ。その頃、塾生が亡くなる事故を経験。「命を預かる仕事だと再認識した。今後、誠実に活動を続け一人でも多くの若者を支えていきたい」



24歳で
若者支援に
飛び込んだ



71年神奈川県生まれ。短大を卒業後に野村證券に一般職として就職も、もっと直接的に誰かの役に立つ仕事をしたい、と不登校の若者支援を行う団体でボランティアを開始。元気になる若者を見てやりがいを感じ24歳で転職。25歳から約10年間海外勤務。34歳で帰国し現職。⑤ニュージーランドで働いていた頃

- 20代にしてよかったこと／大企業の一員として働いたことが今に生きている
- 30代にしてよかったこと／この仕事を続けてきたこと。さらに続けて行く覚悟ができた
- 仕事に役立った・人生に効いた本／『聖書』『なぜ、働くのか』（田坂広志著）『働く上での手引きとして時々手に取ります』